

3年間を見通した平成22年度以降の入学生の全体的な指導計画（例１）

この指導計画例は年間指導時数を87時間（ガイダンス指導の3時間を含む）で配当し、5つのパターン（例１から例５）で構成しています。
それぞれの例の特徴を参考にして、各学校の実情等に応じて作成してください。
なお、この指導計画例は、鹿児島市立吉田南中学校竹下教諭との共同作成です。

学年	時間																																			
	4			5			6				7				9				10				11			12			1			2			3	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	
1年	題材	ガイダンス			生物育成に関する技術を利用した栽培													材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作													機器の仕組み と保守点検					
					ディジタル作品の設計・制作																															
	指導内容	A（１） ア・イ			C（１）ア・イ（２）ア													A（２）ア・イ（３）ア・イ・ウ																		
					D（１）ア（２）ア・イ													B（１）ア・イ																		
2年	題材	材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作									情報通信ネットワークと情報モラル										エネルギー変換のしくみと保守点検 エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作															
	指導内容	A（２）ウ（３）ア・イ・ウ									D（１）イ・ウ										B（１）ア・イ（２）ア・イ															
3年	題材	エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作									プログラムによる計測・制御																									
	指導内容	B（１）ウ（２）ア・イ									D（１）エ（３）ア・イ																									

A	材料と加工	29
B	エネルギー変換	25
C	生物育成	10
D	情報	23
計		87

特徴	○	生物育成やエネルギー変換においては、理科の関連内容の履修時期とほぼ同じ時期で指導できる。
	○	材料と加工を２題材制で取り扱い、１年時、２年時それぞれ基礎題材と応用題材を取り扱う。
	○	機器のしくみと保守点検については、材料と加工の中で工作機械の取扱いで触れる。
	△	１年時に全内容が入ってしまうため、学習内容がやや拡散する傾向にある。
	△	内容が１・２年及び２・３年でまたがっているため、意欲を継続させながら指導するのは難しい。
	△	１年で情報モラルを取り扱わない。

3年間を見通した平成22年度以降の入学生の全体的な指導計画（例2）

学 年	月	4			5			6				7				9				10				11			12			1			2			3		
	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35		
1 年	題材	ガイダンス			情報通信ネットワークと情報モラル								材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作														機器の仕組みと保守点検			生物育成に関する技術を利用した栽培								
	指導内容	A（１） ア・イ			D（１）ア・イ・ウ								A（２）ア・イ（３）ア・イ・ウ														C（１）ア C（２）ア											
		B（１）ア・イ																																				
2 年	題材	材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作											デジタル作品の設計・制作										エネルギー変換のしくみと保守点検 エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作															
		生物育成に関する技術を利用した栽培																																				
	指導内容	A（２）ウ（３）ア・イ・ウ											D（１）ア（２）ア・イ										B（１）ア・イ（２）ア・イ															
C（１）ア・イ C（２）																																						
3 年	題材	エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作										プログラムによる計測・制御																										
	指導内容	B（１）ウ（２）ア・イ										D（１）エ（３）ア・イ																										

A	材料と加工	27.5
B	エネルギー変換	24.5
C	生物育成	9
D	情報	26
計		87

特徴	○	1年時の夏季休業前に情報モラルを含めたパソコンの利用について学習できる。
	○	材料と加工の学習で、生物育成につながる題材を選択することで栽培との連結がスムーズである。
	○	デジタル作品は、材料と加工での作品や栽培記録等を取り扱うことで、指導に流れができる。
	△	1年時に全内容が入ってしまうため、学習内容がやや拡散する傾向にある。
	△	内容が1・2年及び2・3年でまたがっているため、意欲を継続させながら指導するのは難しい。
	△	材料と加工、エネルギー変換で発達段階に応じた適切な題材の選定が必要となる。

3年間を見通した平成22年度以降の入学生の全体的な指導計画（例3）

学年	月	4			5			6			7			9			10			11			12			1			2			3					
	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	
1年	題材	ガイダンス			情報通信ネットワークと情報モラル			材料と加工法			材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作																										
	指導内容	A（1）ア・イ			D（1）ウ			A（2）ア・イ			A（2）ウ（3）ア・イ・ウ																										
2年	題材	エネルギー変換のしくみと保守点検						エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作											エネルギー変換のしくみと保守点検		生物の生育環境と育成技術		生物育成に関する技術を利用した栽培又は飼育										生物の生育環境と育成技術				
	指導内容	B(1)ア・イ						B（2）ア・イ											B（1）ウ		C（1）ア		C 2（ア）										C（1）イ				
3年	題材	情報通信ネットワークと情報モラル			デジタル作品の設計・制作			プログラムによる計測・制御			情報通信ネットワークと情報モラル		評価活用																								
	指導内容	D（1）ア・イ			D（2）ア・イ			D（3）ア・イ			D（1）ウ		A(2)ウ B(1)ウ C(1)イ D(1)エ																								

A	材料と加工	32.5
B	エネルギー変換	23.5
C	生物育成	12.5
D	情報	18.5
計		87

特徴	○ 1年の最初の段階で情報モラルを含めたパソコンの利用について学習できる。 ○ 材料と加工の学習を分断せず実施できる。 ○ 2年のエネルギー変換の製作はロボコン題材を取り扱うことでロボコン大会にも対応できる。 △ 生物育成やエネルギー変換においては、理科などの関連内容の履修時期とずれてしまう。 △ 生物育成が冬期に履修するため、選択できる植物等が限られてしまう。 △ 4つの内容を順番に履修する形となり、指導に流れをつくるのが難しい面がある。
----	---

3年間を見通した平成22年度以降の入学生の全体的な指導計画（例4）

学 年	月	4		5		6		7		9		10		11		12		1		2		3															
	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	
1 年	題材	ガイダンス			情報通信ネットワークと情報モラル			材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作																												生物の生育環境と育成技術	
	指導内容	A（１）ア・イ			D（１）ア・ウ			A（２）ア・イ・ウ（３）ア・イ・ウ																												C（１）ア	
2 年	題材	ディジタル作品の設計・制作						情報通信ネットワークと情報モラル						エネルギー変換のしくみと保守点検 エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作																							
		生物育成に関する技術を利用した栽培																																			
	指導内容	D（２）ア・イ						D（１）ア・イ・ウ						B（１）ア・イ（２）ア・イ																							
		C（１）ア・イ（２）ア																																			
3 年	題材	エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作						プログラムによる計測・制御																													
	指導内容	B（１）ウ（２）ア・イ						D（１）エ（３）ア・イ																													

A	材料と加工	28
B	エネルギー変換	23
C	生物育成	9
D	情報	27
計		87

特徴	○	1年時の夏季休業前に情報モラルを含めたパソコンの利用について学習できる。
	○	デジタル作品は、栽培記録等を取り扱うことで、指導に流れができる。
	○	1年時に生物育成の基礎を学ぶことで、2年生ですぐ栽培にとりかかることができる。
	△	内容が1・2年及び2・3年でまたがっているため、意欲を継続させながら指導するのは難しい。
	△	生物育成の内容の履修時間が、やや少なくなってしまう。
	△	生物育成やエネルギー変換においては、理科などの関連内容の履修時期とずれてしまう。

3年間を見通した平成22年度以降の入学生の方針的な指導計画（例5）

学 年	月	4			5			6				7			9				10				11			12			1			2			3		
	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	
1 年	題材	ガイダンス			情報通信ネットワークと情報モラル						材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作																										
	指導内容	A（１） ア・イ			D（１）ア・イ・ウ						A（２）ア・イ・ウ（３）ア・イ・ウ																										
2 年	題材	エネルギー変換のしくみと保守点検 エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作 生物育成に関する技術を利用した栽培（学校や地域の実態に合わせて１０h程度）																																			
	指導内容	B（１）ア・イ・ウ（２）ア・イ C（１）ア・イ（２）ア																																			
3 年	題材	デジタル作品の設計・制作									プログラムによる計測・制御																										
	指導内容	D（２）ア・イ									D（１）エ（３）ア・イ																										

A	材料と加工	28
B	エネルギー変換	25
C	生物育成	10
D	情報	24
計		87

特徴	○ 1年時の夏季休業前に情報モラルを含めたパソコンの利用について学習できる。
	○ 内容が学年をまたぐことなく、単年度で指導内容をおさえることができる。
	○ 天候や栽培する作物の条件から、実態に合わせて栽培時期をかえることができる。
	△ 2年時を除き、4つの内容を順番に履修するため、指導に流れをつくるのが難しい面がある。
	△ 3年時のデジタル作品の設計・制作での素材に学習の系統性をつなげるのが難しい。